

朝の読書の評価に関するアンケート調査—意義と問題点—

薬袋 秀樹
(筑波大学)

【要旨】

本研究の目的は、朝の読書の評価に関するアンケート調査の意義と問題点を明らかにすることである。これまで行われてきた朝の読書の評価に関するアンケート調査に関する文献を収集し、①調査の実施状況、②調査結果、特に生徒による評価の内容、③今後の課題について検討した。研究の結果、①調査の実施については、毎日新聞社等による全国調査のほか、各学校で調査が行われていること、各学校での調査は、調査対象者数、実施年月日等の調査の方法と調査結果のくわしいデータを記載しているものとそうでないものがあること、②調査の結果については、朝の読書が、小学生を中心に読書の普及に役立っていること、さまざまな点で生徒の心の充実に寄与していること、③今後の課題として、標準的な質問紙と発表方法の開発が必要であることが明らかになった。

1. 序論

(1) 研究の背景

朝の読書とは、小・中・高等学校で、朝の授業開始前に10分程度、教師と生徒全員が自分の読みたい本を読む読書活動である。10分間行う学校が多いことから、朝の10分間読書とも呼ばれる。朝の読書の効果は、これまで、林公をはじめとする朝の読書の実践者によって示されているが、多くの効果が挙げられているため、必ずしも理解が容易ではない。薬袋秀樹は、朝の読書の効果に関する林の意見を、下記の直接的な効果に関する10項目と、派生的な効果に関する7項目、合計17項目に整理している¹⁾。

・直接的な効果

- ① 静かな環境の中で読書ができ、読書に集中できる。
- ② 静かな環境で読書するため、自分と対話することができ、落ち着いた精神状態になる。
- ③ 遅刻が減り、ホームルームが静かになり、集中できる。
- ④ 授業にスムーズに入れ、授業に対する集中力が高まる。
- ⑤ 自分が必要とする、自分に合い、自分が読める本を選ぶため、それぞれの生徒が自分に必要なことを学ぶことができる。
- ⑥ 毎日10分のため我慢でき、積み重ねが力になる。
- ⑦ 読書が嫌いな生徒が本を読むようになり、読書が好きになる。
- ⑧ 日常生活の中で読書時間が増え、図書館・書店に行き、本を探す機会が増える。
- ⑨ 言語能力（読み、理解し、考え、想像し、表現する力）が身に付く。
- ⑩ 生徒間に共生感、連帯感が生まれ、周囲の人々との間に本に関する対話が増え、本の貸借を通じて、人間関係が広がる。

・派生的な効果

- ① 感情の体験を積み重ねることによって、感情が統御され、情緒が安定する。
- ② さまざまな生き方、考え方に接し、社会を知り、自分に必要な知識や経験を入手できる。
- ③ 安定した情緒と言語能力が基礎学力の土台を形成する。
- ④ 規則正しい生活習慣の形成に役立つ。
- ⑤ 本を自分で選ぶため、自主性、自立の精神を身に付けることができる。
- ⑥ 心が落ち着き、人の心の痛みがわかり、思いやりが身に付く。
- ⑦ 以上をもとに、人間的に成長し、自分に自信と誇りを持つようになる。

これらのもととなっている林の意見では、具体的な典拠が示されていない場合が多いが、関連する著作では、朝の読書における生徒の反応のほか、生徒に対するアンケート調査の結果と生徒の感想文が紹介されており、これらが根拠となっていると考えられる。朝の読書に取り組む教員は、朝の読書の意義を明確にするために、しばしば、朝の読書の評価に関するアンケート調査を行い、感想文の提出を求めている。このうち、アンケート調査の結果は実証的なデータとして重要である。これは、単行書、雑誌記事、朝の読書実践研究会の機関誌『はるか』に掲載されており、生徒による朝の読書の評価を示す貴重な資料であるが、これまで、一度も体系的に分析されていない。

なお、朝の読書と学力の相関については、山崎博敏（広島大学）等の7名の研究者からなる研究チームによる朝の読書と学力の関係に関する分析がある²⁾が、ここでは、朝の読書全体に関するアンケート調査を対象とする。

(2) 研究の目的

本研究の目的は、朝の読書の評価に関するアンケート調査の意義と問題点を明らかにすることである。このため、①どのような調査が実施されているか、②調査の結果はどのようなものか、特に生徒による評価はどのようなものか、③今後の課題は何か、の3点について検討を行う。

(3) 研究の方法

朝の読書に関する単行書、雑誌記事、朝の読書実践研究会の機関誌『はるか』、朝の読書関係のウェブサイト、研究会の発表資料等に掲載されている、朝の読書の評価に関するアンケート調査の結果を収集した。雑誌記事は、国立国会図書館の「雑誌記事索引」を「朝の読書」等のキーワードで探索して得た約200点を用いた。『はるか』は、入手できた69号（2004年10-11月）から102号（2010年8-9月）を対象とした。ウェブサイトは、下記の2つのウェブサイトを調査した。

- ・朝の読書推進協議会（大塚笑子理事長）「朝の読書ホームページ」

(http://www1.e-hon.ne.jp/content/sp_0032.html、2012年4月25日参照)

- ・「朝の読書総合情報室」

(<http://www.geocities.co.jp/Bookend/5341/side.html>、2012年4月25日参照)

以上から、37件のアンケート調査結果の記事を収集した（末尾のアンケート調査関係文献一覧参照）。次に、次の3つの観点から、その内容を検討した。

- ① 調査の実施状況について、1. 調査の対象はクラス、学年、学校のいずれか、あるいは

はそれ以上か、2. 調査の主体は教員か研究者、研究機関か、3. 調査方法と調査結果に関するデータはどの程度示されているかを検討する。

② 調査結果について、読書習慣の有無や読書量に関する項目とともに、1章で挙げた朝の読書の効果と考えられる17項目が質問に含まれているか、その結果はどうかを検討する。

③ 今後の課題として、何が考えられるかを検討する。

2. 朝の読書に関する全国調査

(1) 調査の概要

毎日新聞社『読書世論調査』(年刊)には、毎年「学校読書調査」が収録されている。これは、毎日新聞社広告局、毎日企画サービス、(社)全国学校図書館協議会が企画・実行している、小・中・高校の生徒を対象とする読書調査である。この2008年版(2008)には、「第53回学校読書調査」が収録されており、第3章で「全校一斉読書」を取り上げている(以下、全国調査という)。これは、第1回以来、初めて行われたものである。この調査の概要は『毎日新聞』に掲載され、その記事が『はるか』に転載されている。全校一斉読書の定義は「全校でいっせいに本を読む時間」で、朝の読書だけでなく、休み時間や放課後を利用したものなど、さまざまな形での読書の時間が含まれる。

調査対象は、小・中学校については、大都市、中都市、小都市、郡部に4分類し、それぞれの在籍児童・生徒数の比率に応じて対象校を求めており、高等学校では、全日制を9学科に分類し、在籍生徒数の比率に応じて対象校を求めている。対象校ごとに、各学年(小学校は4~6年生)1学級を選び、学級全員を対象としている。調査時期は2007年6月上旬で、サンプル数は、小学生3,519人、中学生3,866人、高校生3,946人である。

「全校一斉読書の有無」「全校一斉読書に対する感想」「全校一斉読書で変わったこと」「全国一斉読書は必要か」「全校一斉読書をよくするための方策」の5つの質問がある。全体、男子、女子、各学年の男子、女子のデータが示されている。

専門機関による本格的な調査で、調査方法、調査結果のデータが詳しく記載されている。

(2) 主な質問の回答

ここでは、「全校一斉読書についての感想」「全校一斉読書で変わったこと」の二つの質問の回答を示す。

主な回答は次のとおりである(A、Bの記号と番号を付す。単位は%である)。

A. 全校一斉読書についての感想	小学校	中学校	高等学校
1. 本を読めるので、楽しい	37.0	31.7	30.4
2. 静かに過ごせるのでいい	19.8	24.9	26.4
3. もっと長い時間にしてほしい	30.7	25.9	18.5
4. 本をよむより勉強したい	3.1	3.3	6.4
5. 本を準備するのがめんどろだ	4.5	8.7	13.5
B. 全校一斉読書で変わったこと			
1. 本を読むことが好きになった	42.8	25.5	17.1

2. 本を読むことが増えた	50.0	51.7	41.0
3. 友だちや親と本の話をするようになった	17.1	13.4	6.2
4. 先生と本の話をするようになった	2.1	1.3	0.7
5. 学校図書館に行くことが増えた	23.4	10.5	7.3
6. 地域の図書館に行くことが増えた	11.9	3.5	1.8
7. 本屋さんに行くことが増えた	28.4	27.2	15.9
8. 本を読むことが嫌いになった	1.9	1.4	0.9
9. 特に変わったことはない	22.5	28.2	40.2

(3) 調査の結果

調査結果の概要は下記のとおりである。なお、1章で挙げた17項目のうち、対応するものを〔 〕内に示す。

小・中・高校のいずれでも、30%以上が「本を読めるので、楽しい」と感じており、小学校で40%以上、中学校で約26%、高校で約17%が、読書を好きになっている〔(1)⑦〕。小・中学校で50%以上、高校で40%以上が、読書量が増えている〔(1)⑧〕。小学校で約17%、中学校で約13%、高校で約6%が、友だちや親と本の話をするようになっている〔(1)⑩〕。書店に行くことは約15~28%、学校図書館に行くことも約7~23%増えている。書店や図書館の利用が増えた増加率は、書店>学校図書館>公共図書館の順である〔(1)⑧〕。一斉読書の影響は、小学校>中学校>高等学校で、年齢の低い学校ほど高い。

他方、小学校で約20%、中学校で約25%、高校で約26%が、「静かに過ごせるのでいい」と感じており、年齢が高くなるほど多くなっている。これは、朝の読書がもたらす「静寂」の重要性を示すものと考えられる〔(1)②〕。

一般に朝の読書の意義として挙げられる、読書が好きになること、読書量が増えること等はこの調査によって実証されている。

3. 朝の読書に関する各学校の調査

(1) 調査の概要

朝の読書を実行している学校でもアンケート調査が行われている。単行書に掲載されて広く知られている読書調査から、読書調査の傾向を見てみたい。九州女子高等学校のアンケート調査〔文献10〕は次の4項目である。

1. 現在、月に何冊読んでいるか。
2. 本はどのように準備するか。
3. 朝読書前と変わったところは。
4. 困っていることや嫌なことは。

岡山県落合町立落合中学校のアンケート調査〔文献13〕は次の6項目である。

1. あなたは「朝の読書」が始まる前、本を読む方でしたか、それとも？
2. 「あまり読まなかった」という方、読まない理由は何ですか？
3. 中学に入り、「朝の読書」があると聞いてどう思いましたか？
4. 「朝の読書」ではどんな本を読んでもいいことになっていますが、あなたはそのこ

とで悩んだり、困ったりしませんでしたか？

5. 「朝の読書」で読む本は、主にどこで手に入れていますか？

6. 「朝の読書」で自分が変わったなど思うことはどんなことですか？

この調査にも見られるが、一般に次のような項目が多い。読書一般については、読書の好き嫌い、読書の量（読む冊数）、読書の内容（よく読む本）、本の入手先、朝の読書については、朝の読書が楽しいか、朝の読書によって何が変わったか、本はどこで入手しているか、朝の読書をすすめるには、どうしたらよいか、などである。

(2) その他の効果に関する調査結果

37件の調査結果では、全国調査と同様の質問を行っているが、いずれも、全国調査とほぼ同様の結果が得られている。そのため、ここでは、全国調査で取り上げていない、朝の読書のその他の効果に関する質問を含む8つの調査を選択し、その他の効果に関する調査項目を抽出し、その選択肢と回答を示す。8つの調査について、学校名、調査の実施年、調査対象の学年のほか、記載データの種類（比率か人数か、数値とグラフの有無）を記載する。調査対象者と回答者の人数の数値が示されている場合は、比率を算出して記載する。数値の記載がなく、グラフのみの場合は、参考として、グラフから読み取れる数値の概数を丸括弧に入れて記載した。

① 九州女子高等学校（1999）（高1～高3）（比率、数値あり）[文献10]

・朝読書前と変わったところは

マンガ・雑誌以外の本を読むのが苦にならなくなった 17%

遅刻しないで、落ち着いて授業やHRに入れるようになった 3%

② 岡山県立成羽高校（1999）（高3）（比率、数値なし、棒グラフ） [文献11]

・朝読書で、自分が変わったと思うこと

読む本のジャンルが広がった (40%台)

漢字が以前に比べ、よく読めるようになった (10%台)

一日の始まりを落ち着いた気分でスタートできる (10%台)

集中力がでてきたと思う (10%台)

落ち着きがでてきたと思う (20%台)

やさしい気持ちをもつことができるようになった (20%台)

③ 山陽女子中学校・高校（1998-2000）（高1→3の各学年）（人数、数値あり）[文献12]

・「朝読書」をしてあなたはどうか変化しましたか？

	1年生	2年生	3年生
心が落ち着いてきた	40人	59人	62人
集中できるようになった	38人	64人	62人
1校時に入りやすくなった	19人	24人	37人
知的好奇心が湧いてきた	43人	70人	74人
目標が見つかった	6人	26人	16人

④ 岡山県落合町立落合中学校（2001）（中1～3）（人数、数値あり、比率は算出）[文献13]

・「朝の読書」で自分が変わったなど思うのはどんなことですか？

	1年生	2年生	3年生
漢字がよく読めるようになった	11%	13%	14%
語彙が豊富になった(言葉が増えた)	8%	11%	10%
テストの点が良くなった	0%	1%	2%
集中力がついた	14%	12%	8%
自分が豊かになったような気がする	9%	6%	8%

⑤ 大阪府東大阪市意岐部中学校(2002)(中1～3、合計)(人数、数値なし、棒グラフ)
[文献14]

- ・朝の読書に取り組んで、自分自身に変化を感じますか? (合計)
- 日常生活でも落ち着きが出てきた。(20人台)
- 色々な面で集中力がついた。(50人台)
- 漢字が読めるようになってきた。(40人台)

⑥ 鈴鹿工業高等専門学校(2004)(1年)(人数、数値あり、比率は算出)[文献18]

- ・効果に関する設問
- 読書している間に、気持が落ち着いた 55%
- クラス全体が静まり返って気持がよかった 29%
- 遅刻してくるひとがなくて授業がスムーズに始まる 21%
- 授業への集中が高まった 19%
- いい本・作家に出会えた 5%

⑦ 青森県鶴田町小学校・中学校(2006)(比率、数値なし、グラフ)[文献20]

- ・読後の学習意欲(小学校)
- 集中できる (30%台)
- ・読後の学習意欲(中学校)
- 集中できる (5～10%)

⑧ 愛媛県松山市立津田中学校(2009)(中1～3)(人数、数値なし、棒グラフ)[文献36]

- ・朝読書をしてよかったことは?
- 想像力・集中力がついた (50～60人台)
- リラックスできた。(30～70人台)
- 漢字や言葉を覚えられた (30～40人台)
- 考え方が変わった、視野が広がった。(20～40人台)

(3) その他の効果に関する調査結果の分類

回答の選択肢には共通するものが見られるので、同じカテゴリーと考えられるものを分類して見出しの下に示し、1章で挙げた17項目のうち対応するものを[]内に示す。選択肢には調査の番号を示す。ここでは、5%以上の回答があるものを取り上げる。

- ・読む本の範囲の広がり
 - マンガ・雑誌以外の本を読むのが苦にならなくなった ①
 - 読む本のジャンルが広がった ②
- ・心の落ち着き [(1)②、(2)①⑥]

- 落ち着きがでてきたと思う ②
- 心が落ち着いてきた ③
- 一日の始まりを落ち着いた気分でスタートできる ③
- 日常生活でも落ち着きがでてきた ⑤
- 読書している間に気持ちが落ち着いた ⑥
- ・集中力の向上 [(1)①③④]
- 集中力がでてきたと思う ②
- 集中できるようになった ③
- 集中力がついた ④
- 色々な面で集中力がついた ⑤
- 読後の学習意欲 集中できる ⑦
- 集中力がついた ⑧
- ・授業への集中 [(1)④]
- 1校時に入りやすくなった ③
- 遅刻してくる人がなく授業がスムーズに始まる ⑥
- 授業への集中が高まった ⑥
- ・言語能力の向上 [(1)⑨]
- 漢字が以前に比べ、よく読めるようになった ②
- 漢字がよく読めるようになった ④
- 語彙が豊富になった(言葉が増えた) ④
- 漢字がよく読めるようになった ⑤
- 漢字や言葉を覚えられた ⑧
- ・考え方・情緒への影響
- いい本・作家に出会った [(1)⑤] ⑥
- 考え方が変わった、視野が広がった [(2)②] ⑧
- 目標が見つかった [(2)②] ③
- 知的好奇心が湧いてきた ③
- 想像力がついた ⑧
- やさしい気持ちをもつことができるようになった [(2)⑥] ②
- 自分が豊かになったような気がする [(2)⑦] ④

このように、朝の読書のその他の効果については、アンケート調査の約2割で調査が行われており、一定の結果が得られている。さまざまな点で、生徒の心の充実に寄与していることが明らかになっている。「読む本の範囲の広がり」、「考え方・情緒への影響」のうちの「知的好奇心が湧いてきた」「想像力がついた」の3項目については、1章で挙げた17項目の中に対応する項目がない。この3点については、関係文献にさかのぼって、17項目を見直す必要がある。他方、1章で挙げた「直接的な効果」のうち、これまでの調査で取り上げられていない項目として、「自分と対話することができる」「自分に合い、自分が読める本を選ぶ」「毎日10分のため我慢でき、積み重ねが力になる」がある。これらについ

ては今後の調査が必要である。

(4) 調査結果の発表方法

表1は、8つの調査について、調査の名称、実施主体、対象者数、回答者数、質問紙、実施年月日等の調査方法と調査結果のデータの記載状況を示したものである。記載しているものには○、していないものには×、質問紙については、質問紙を掲載してなくても、回答結果から、質問紙の全体がわかるものには△を記載した。対象者数は、記載されていなくても、算出できるものは△とした。1、4、6、8では、必要な事項の大部分が記載されているが、2、3、5、7では、記載されていない。数値を記載せず、棒グラフのみで記載している場合は、正確な数値の把握と引用が困難で、成果の紹介に不便である。

表1 調査方法と調査結果のデータの記載状況

	学校名	対象 範囲	名称	実施 主体	対象 者数	回答 者数	質問 紙	実施年 月日	調査結果データの記載方法
1	九州女子高校	全校	○	○	○	○	△	○	比率、数値あり
2	岡山県立成羽高等学校	学年	×	×	×	×	△	×	比率、数値なし、棒グラフ
3	山陽女子高等学校	全校	○	×	×	×	△	×	人数、数値あり
4	岡山県落合町立落合中学校	全校	○	○	○	○	△	○	人数、数値あり
5	大阪府東大阪市立意岐部中学校	全校	×	○	×	×	△	×	人数、数値なし、棒グラフ
6	鈴鹿工業高等専門学校	クラス	○	○	△	○	○	×	人数、数値あり
7	青森県鶴田町小・中学校	町内	○	○	×	×	○	×	比率、数値なし、グラフ
8	愛媛県松山市立津田中学校	全校	○	×	○	○	△	○	人数、数値なし、棒グラフ

4. 結論

(1) 調査の実施状況

2008年の毎日新聞社「学校読書調査」は、朝の読書に関する唯一の全国調査で、専門機関による本格的な調査である。これ以外の調査には、研究者によるものは見られず、ほとんどは各学校と教員によるものである。

調査の項目は、大まかに分けて、次の3つの要素の組み合わせから構成されている。①読書の状況と内容、朝の読書の実施状況、読書量・内容、②朝の読書に対する評価、継続希望の調査、③朝の読書の効果の調査。質問項目も類似したものとなっている。

教員による調査には、実施主体、対象人数、実施年月日等の調査方法と調査結果のデータをくわしく記載しているものと記載していないものがある。

(2) 調査結果

「学校読書調査」による全国調査の結果、朝の読書によって、生徒の読書量が増え、生徒が読書を好きになる等の結果が生じていること、朝の読書が読書普及に役立っていることが明らかになっている。これは、朝の読書に対する実証的な評価であり、この調査結果を普及させる必要がある。ただし、この調査では、朝の読書のその他の効果については調査されていない。この点については、各学校で調査が行われている。調査結果では、朝の

読書がさまざまな点で生徒の心の充実に寄与していることが明らかになっている。

これらの調査によって、1章で挙げた17項目のうち13項目（「直接的な効果」の①～⑤、⑦～⑩の9項目、「派生的効果」の①②⑥⑦の4項目）について、アンケート調査で関連する選択肢が設けられ、一定の回答が得られていることが明らかになった。読書活動の意義の説明は抽象的なものになりやすいが、朝の読書では、各学校や教員によるアンケート調査によって、その効果が、部分的ではあるが、実証されつつある。

(3) 今後の課題

今後の課題として、朝の読書の効果をもっと明確にする必要がある。それには、第一に、朝の読書の効果と考えられている事項を包括した調査票を作成して調査を実施すること、第二に、その結果を適切な形で発表して積み重ねることが必要である。そのためには、さらに調査結果を収集・整理し、朝の読書の効果について分析し、それをもとに、各学校の教員が自分で実施できるような標準的な質問紙と発表の方法を開発することが必要である。

本稿は、2010年度日本生涯教育学会大会発表を加筆修正したものである。また、本研究は、科研費「基盤研究(B)20300086 地域社会の課題解決を支援する公共図書館のサービス・研修モデルの構築に関する研究」の助成を受けたものである。

注

- 1) 葉袋秀樹「朝の読書の効果に関する議論について－林公氏の所説の分析」(『日本生涯教育学会論集』31、pp.23-32、2010)
- 2) 山崎博敏『学力を高める「朝の読書」』メディアパル、2008、79p.

アンケート調査関係文献一覧

・図書・雑誌記事(年代順配列)

- 1) 今村秀夫『子どもを見つめる読書指導』国土社、1967、pp.14-25.
- 2) 南場勝己「全校読書としての25分間読書運動」(『学校図書館』202、pp.33-36、1967)
- 3) 伊東尚典「読むきっかけをつくってやる朝の一斉読書」(『学校図書館』311、pp.45-47、1976)
- 4) 角美恵子「朝の10分間読書-福岡県八女市立長峰小学校」(『学校図書館』324、pp.49-53、1977)
- 5) 高見順清「早朝読書会を実施して-岐阜県立海津高等学校」(『学校図書館』354、pp.57-60、1980)
- 6) 小林京子「週一回、全校一斉に朝の一五分間読書を実施」(『学校図書館』392、pp.10-13、1983)
- 7) 船橋学園読書教育研究会編著『朝の読書が奇跡を生んだー毎朝10分、本を読んだ生徒たち』高文研、1993、pp.28-30.
- 8) 林公+高文研編集部編『続・朝の読書が奇跡を生んだ』高文研、1996、pp.93-95、169.
- 9) 岩本秀司「朝の読書ーその開始と現状、展望ー」(『学校図書館』565、pp.63-65、1997)
- 10) 林公編著『心を育てる朝の読書ー10分間朝読書で、子どもが変わる、学校が変わる』教育開発研究所、1999、pp.134-135、165-171、196-198、248-249.
- 11) 大久保緑子「朝の十分間読書」実践報告-朝読書はドラマがいっぱい(『清心語文』2、pp.69-83、2000)

- 12) 塩山啓子「朝の十分間読書」がもたらしたもの」(『清心語文』3、pp.106-118、2001)
- 13) 岡山県落合町立落合中学校「朝の読書」推進班編『朝の読書」が学校を変える』高文研、2001、巻末 4p.
- 14) 東大阪市立意岐部中学校「朝の読書」やらんよりやった方がええ」(『解放教育』32(6)、pp.36-45、2002)
- 15) 河野安広「心が切り替わる「朝の読書」」(『教職研修』32(7)、pp.92-94、2004)
- 16) 田所純一「朝の読書」が新しい自分を創る」(『月刊ホームルーム』30(6)、pp.26-28、2005)
- 17) 伊東泰彦「朝読書の花を咲かせるために一朝読書一年生」(『教職研修』34(5)、pp.96-99、2006)
- 18) 出口芳孝「朝の読書による授業姿勢改善の試み」(『鈴鹿工業高等専門学校紀要』39、pp.41-43、2006)
- 19) 相澤信子「朝の読書」本格実施への道」(『教職研修』34(10)、pp.80-83、2006)
- 20) 青森県鶴田町立菖蒲川小学校「事例紹介 鶴田町における「朝の全校読書活動」の取組について」(『マナビィ』63、pp.11-13、2006)
- 21) 高下久利「みんなで「毎日」「好きな本を」「読もう」」(『教職研修』35(7)、pp.90-93、2007)
- 22) 中村豊「国語力」を高める「朝の読書」をめざして」(『教職研修』35(10)、pp.100-102、2007)
- 23) 中村宏「朝読」で子どもが変わる」(『教職研修』35(12)、pp.88-91、2007)
- 24) 宮田祐子「百利あって一害なし「朝の読書」」(『月刊ホームルーム』32(8)、pp.26-28、2007)
- 25) 須藤直「朝の読書」導入と二年間の経緯」(『教職研修』36(5)、pp.102-105、2008)
- 26) 山田洋一「子どもの実態を捉え「朝の読書」を導入する」(『教職研修』36(7)、pp.96-99、2008)
- 27) 毎日新聞社『読書世論調査』2008年版、2008、pp.84-90、111-115。
・「はるか」(全国朝の読書連絡会)掲載記事(年代順配列)
- 28) 佐々木信子「朝の読書」石巻西高校の取り組み」(『はるか』73号、2005)
- 29) 中西英代「新学期を迎えてのご報告-授業時10分間読書のレポート(第5回)」(『はるか』84号、2007)
- 30) 荒木孝典「朝の読書交流会資料」(『はるか』86号、pp.9-13、2007)
- 31) 中西英代「はるかの皆さんへ」(『はるか』90号、pp.6-7、2008)
- 32) 木下勝「第二高校『朝の読書』レポート」(『はるか』90号、pp.8-9、2008)
- 33) 鶴本市朗「卒業論文に「朝の読書」」(『はるか』91号、pp.6-14、2008)
- 34) 中西英代「はるかの皆さんへ」(『はるか』95号、pp.5-7、2009)
- 35) 磯道来恵視「はるかのみなさん こんにちは」(『はるか』97号、pp.13-18、2009)
- 36) 磯道来恵視「はるかのみなさん こんにちは」(『はるか』99号、pp.13-18、2010)
- 37) 中西英代「はるかの皆さんへ」(『はるか』100号、pp.34-37、2010)

・朝の読書関係ウェブサイト

- 1) 朝の読書推進協議会(大塚笑子理事長)「朝の読書ホームページ」
(http://www1.e-hon.ne.jp/content/sp_0032.html、2012年4月25日参照)
- 2) 「朝の読書総合情報室」(<http://www.geocities.co.jp/Bookend/5341/side.html>、2012年4月25日参照)